

令和6年度 9月号 令和6年8月29日発行

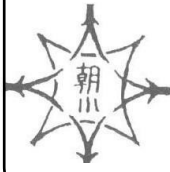
児童数597名

《学校教育目標》

かしこい子

やさしい子

たくましい子



朝霞第四小だより

朝霞市立朝霞第四小学校 〒351-0015 朝霞市幸町1-6-9
TEL (461) 0363 E-Mail 4shou@asaka-c.ed.jp

素敵な日本人の「素敵なお話」

校長 原口 憲充

最高気温が35度越えの、灼熱の夏も少しずつ収まりはじめましたが、保護者・地域の皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。学校では夏休みを終え、子ども達が戻ってきました。成長した子ども達とともに、2学期も仲間を大切にみんなで頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

私はこの夏休み、スポーツのすばらしさを実感しました。例年行われている高校野球に加え、今年はフランスでパリ五輪が開催されました。大会は207の国や地域から10,500人に及ぶアスリートが集うスポーツの祭典となり、各国の選手がそれぞれの思いを持って挑んだ大会でした。

各種目の選手の活躍もさることながら、私は8月3日付の朝日新聞の「天声人語」のエピソードに掲載された、インドネシア人選手を陰から支えた日本人の功績に大変感銘を受けました。それは、女子柔道競技52キロ級 インドネシア共和国代表のマリアム・マハラニ選手が、初めてオリンピックの大舞台で一勝をあげたことです。このマハラニ選手のオリンピックでの一勝には、彼女を中学時代から支えた、ジャカルタ・ジャパン柔道クラブの安齋俊哉師範の存在があるそうです。安齋先生は1988年にインドネシアの初代海外青年協力隊として女子警察官養成学校に派遣されました。その後、インドネシアの警察官や青少年に柔道の指導を行いインドネシア柔道の発展に貢献されました。その後も安齋先生に続き、多くの海外青年協力隊員が海を渡り日に影にインドネシア柔道の発展に努めてきたそうです。私はこの話に出会い、オリンピックという大舞台で「勝ちたい」という目標に挑む選手たち、国籍の異なる指導者が、「国を超え、民族を超え」技の継承を行う姿勢に深く感銘を受けました。私たちの先達の実践は、これからの国際社会でのお手本となる行動であり、国際人として本当に大切なことを学ばせていただいたと感じています。

話は変わりますが、この2学期は1年の中で最も充実した学期です。運動会や陸上競技会、林間学校や校外学習などの行事を通して、皆さんは大きく成長できる良い機会となります。皆さんが今まで培ったことを基に、学習や運動に励み、心も身体も大きく育っていくことを、私達達教職員一同願っています。